

小諸市動物園 将来構想

みんなに愛され、みんなとつながる動物園
～ふれあい、学びから動物と人が楽しくつながる場～



平成31年4月

小諸市動物園

目次

策定の趣旨	1
これまでの主な経過	2
小諸市動物園のめざす姿	3
1. 将来構想	3
2. 基本目標	4
基本目標 1	4
基本目標 2	4
基本目標 3	4
将来構想の位置づけ	4
3. 構想期間	5
(1) 再整備スケジュール	5
(2) 整備効果の把握	5

策定の趣旨

小諸市動物園は、大正 15 年に開設された全国でも 5 番目、県内最古の歴史を持つ動物園です。

小諸城址懐古園内にあり、小さいながらも市民の皆さんをはじめ多くの皆さんに親しまれてきた小諸市動物園ですが、獣舎等の施設は昭和 30 年代から 40 年代に建設されたものが多く、築 50 年を超えて電気や給排水設備も含めた老朽化が進んでいます。

それらの問題には補修による修繕対応をしてきましたが、現在の飼育施設に求められている獣舎スペースへの対応や動物の健康福祉も含めた施設改善が必要となっています。

また、経年に伴う飼育動物の高齢化に加え、コレクションプラン（動物飼育計画）の策定や飼育管理のためのバックヤード整備など、様々な課題が未解決のままであり、十分な検討に基づく計画的な整備が進んできませんでした。

上記の課題や多様化するニーズのなかで、小諸市動物園のあり方について、平成 28 年 11 月に懐古園運営委員会に「小諸市動物園のめざすべき姿（再整備等）」として諮問を行ったところ、「市民をはじめ多くの人に愛される小諸市動物園の再整備を行うことは必要である」との答申がされました。

この答申のなかでは、専門的な知識や経験を持つ有識者の意見を踏まえ将来構想を策定すること。構想策定にあたっては、市民の声も反映させること。特徴的な地形のため調査検証を行い安全の確保、再整備の着実な実行に向けた財源確保と組織体制の整備、再整備後の健全な運営に向けた体制の構築をすることなどが記されています。

小諸市動物園は、小諸城址懐古園内のレクリエーションの場であり、動物たちとの交流の場、子どもたちの情操教育の場であるだけでなく、浅間山麓に生息する野生動物の保護や展示等を通じた自然環境や命に関する教育の場としての役割も担っています。浅間山の唯一の登山口である小諸市にある動物園だからこそ、山麓の自然や動物との関わりをこれからも発信していくことで、浅間山麓及び長野県東信地域唯一の動物園としての存在意義が発揮できるものと考えます。

小諸市動物園がこれからも多くの人に愛される魅力ある動物園としていくため、答申の内容を踏まえ、専門的な知識や経験を持つ有識者の協力と助言を求めるとともに、市民シンポジウムの開催やアンケート、広報等による意見募集を行い、小諸市動物園のめざすべき姿を動物園の開設 100 周年に向けての将来構想として策定するものです。



これまでの主な経過

平成 26 年 2 月 シンポジウム

「小諸市動物園を考える」：主催 成城大学法学部 打越綾子教授 研究室
同シンポジウムにおいてアンケート実施

平成 28 年 11 月 諮問

：小諸市懐古園運営委員会に
「小諸市動物園のめざすべき姿（再整備等）」について諮問
以後 委員会 3 回 視察 1 回行い諮問を協議

平成 28 年 12 月 広報こもろ掲載

：小諸市動物園の歴史、現在のイベントや取り組みについて

平成 29 年 6 月 意見交換会

：市長と飼育員との意見交換（現場の取り組み・めざす動物園について）

平成 30 年 1 月 答申

：小諸市懐古園運営委員会より
「小諸市動物園のめざすべき」姿について（再整備等）」について答申

平成 30 年 6 月 視察

再整備計画進行中の他園状況を視察（長野県飯田市）（山梨県甲府市）

意見交換会

：市長と飼育員との意見交換（めざす動物園について）

意見交換会

：小諸未来義塾での意見交換（懐古園や動物園について）

平成 30 年 9 月 シンポジウム

「小諸市動物園再整備に向けての市民シンポジウム」
：動物園の現状及び敷地周辺の崖の状況（現地見学）
：有識者からの講演及びパネルディスカッション
：同シンポジウムにおいてアンケート実施

平成 30 年 11 月～平成 31 年 1 月 広報こもろ掲載

：シンポジウム報告、有識者から見る小諸市動物園のあり方について
：再整備に向けての意見募集、飼育員の取り組みなど

平成 30 年 12 月 検討会議

：有識者との小諸市動物園再整備検討会議

平成 31 年 2 月 ワークショップ

：有識者と飼育員とのワークショップ
：コレクションプラン策定（動物飼育計画）の協議

平成 31 年 2 月 市民懇談会

：小諸市動物園再整備にむけての市民懇談会開催



専門学校日本デザイナー学院（東京都渋谷区）との連携事業で、テーマキャラクターが決定しました。

小諸市動物園のめざす姿



1. 将来構想

小諸市動物園は、県内最古という歴史をもち大正・昭和・平成と様々な時代の中で多くの市民に支えられそして愛されてきた、小さいながらも歴史や想いのたくさん詰まった動物園です。しかしながら、動物園に求められる社会的役割の変化や動物福祉への配慮、さらに施設の老朽化や崖対策など多くの課題に直面していることから、小諸市動物園では、2026年に開設100周年を迎えるにあたり、全体を見直して再整備をすすめていきます。

再整備にあたっては、小諸市総合計画や小諸市観光地域づくりビジョンを含む市の基本施策との連携や動物愛護法、都市公園法などの関係法令に準拠しつつ、小諸市動物園の強みと弱みを踏まえるなかで、これまで力を注いできた動物との多様なふれあい体験を今後も継承していくとともに、シンポジウムやアンケートなどで寄せられた市民の皆さんの意見（想い）と飼育員や有識者からの意見を反映させ、小諸市動物園のめざす姿（将来構想）を以下のとおりとしました。

みんなに愛され、みんなとつながる動物園

～ふれあい、学びから動物と人が楽しくつながる場～

この構想を基に、来園者が動物たちのいきいきとした姿との出会いや、小動物とのふれあい体験にとどまらない動物たちとの心の交流、環境教育への取り組みなどを通じて学びや楽しさを感じ、地域の生物多様性や人間と動物との関係について関心を持ってもらえるように努力していきます。そして、小諸市動物園が「小諸ならではの」「小諸らしい」動物園として存続していくために、これからも笑顔が生まれ、市民をはじめ多くの方々に愛され、みんなとつながる場所となることをめざします。



2. 基本目標

動物園では、来園者が新たな「発見」「驚き」「感動」に出会い何度でも行きたいと思ってもらえる環境づくりが大切です。市民をはじめ来園したみなさんが、小諸市動物園のファンになって、これからも一緒に動物園を盛り上げてもらえるように、めざす姿を実現するため次の3つの基本目標を柱にすすめます。

基本目標 1

人と動物が快適に過ごせる動物園

動物たちがいきいきと快適に過ごし、来園者の方にとっても、居心地よくゆったりとした安全・快適な環境で動物たちと楽しく出会えることで、動物との絆を深めながらお互いが心地よい空間を体感できるような施設づくりをすすめます。

基本目標 2

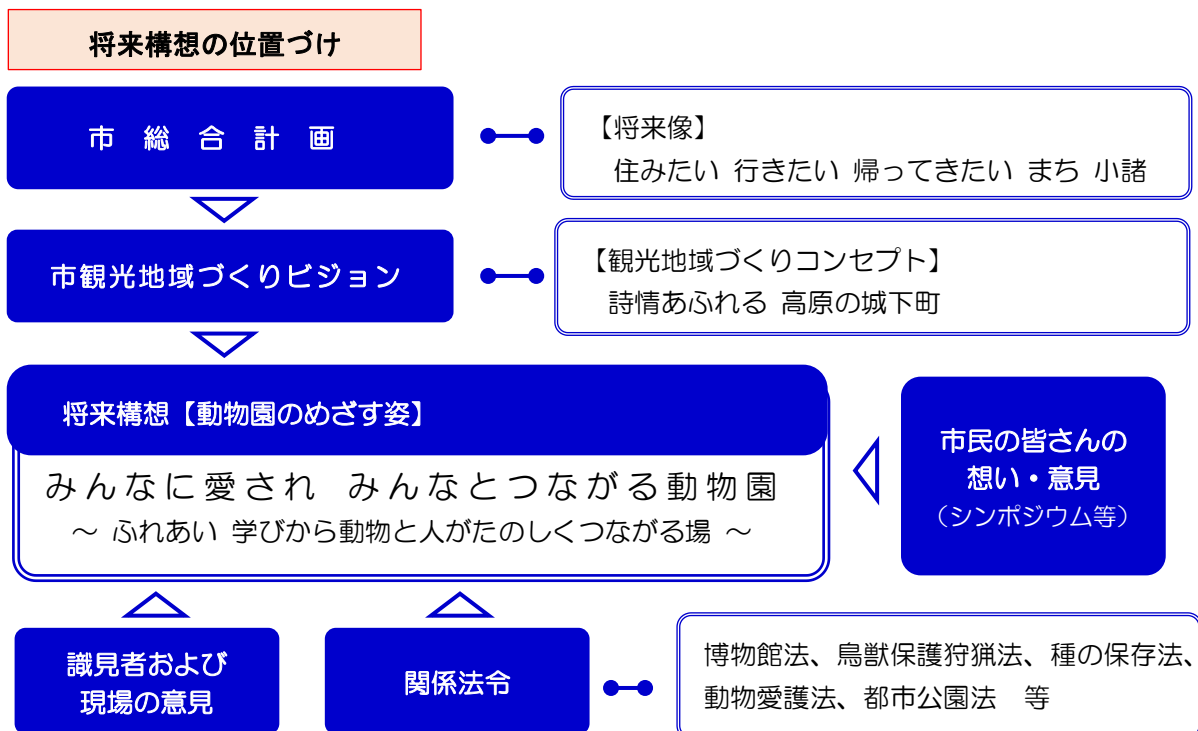
動物とふれあい、命や自然の大切さを楽しく学べる動物園

動物や動物が暮らす自然環境に興味をもつきっかけづくりとして、さまざまな動物たちとの出会いの場を充実させ、私たちの暮らしが多くの生き物に支えられていることを学ぶとともに、生き物たちが暮らす自然環境への関心を持つ取り組みをすすめます。

基本目標 3

みんなで支え、未来につなぐ動物園

先人が残してくれた歴史をつなげ、さらに未来に向けて引き継いでいくため、運営方法の改善や官民連携、市民協働など様々な取り組みをすすめながら、みんなで支えていく持続可能な動物園をめざします。



3. 構想期間

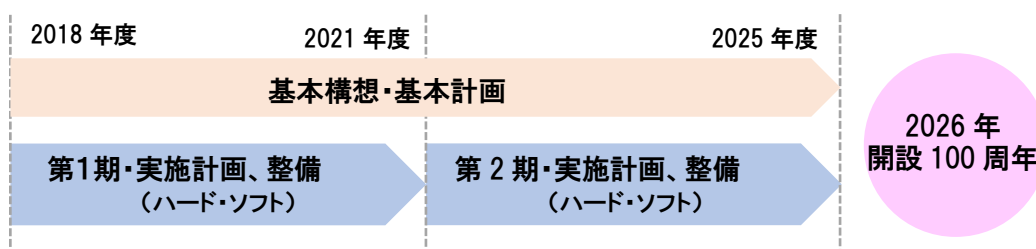


(1) 再整備スケジュール

本将来構想は、現況の施設や動物園を取り巻く状況などを把握し、抽出された課題等から、将来に向けた動物園のめざす姿や3つの柱からなる基本目標を定めたもので、動物園の将来像を示すものです。本来、動物園の再整備は10年・20年の計画で行われるものですが、本構想期間は、動物園の開設100周年となる2026年を一つの目安とし、今後の諸情勢の変化や段階的に整備した施設の評価や効果を検証し、フィードバックしながら随時見直しを行い柔軟に対応していくものとします。

将来構想に基づく再整備の具体的内容及び整備順序は、基本計画で定めていくものとなりますが、大きな流れとして、内閣府の地域再生計画に認定された『日本版DMO「こもろ観光局」を核としてオール小諸で取り組む観光地域プロジェクト』の中で、動物園・遊園地を含む懐古園の魅力強化事業を行うことを踏まえ、この地域再生計画事業の実施期間である2021年度末（2022年3月31日）までを第1期とします。

その後、2025年度末（2026年3月31日）までを第2期とし、2026年の開設100周年に向けて取り組んでいきます。



(2) 整備効果の把握

小諸市では、小諸市総合計画第5次基本構想において、人口減少等の課題に対し、「住みたい 行きたい 帰ってきたい まち 小諸」を将来像に定め、特に産業・交流分野では、「地域の宝、地域の資源を有効活用し、活気ある豊かなまち」を目標に掲げ、まちの活気・賑わいの創出の実現による、観光・交流人口の増加を目指しています。動物園を一角に有する懐古園では、この構想における数値目標として、2017年度の有料入園者数187千人に対し、2027年度で216千人へと増加させることを見込んでいます。

また、『日本版DMO「こもろ観光局」を核としてオール小諸で取り組む観光地域プロジェクト』では、2021年度までの事業実施期間での累計有料入園者数を、事業開始前に比べ5カ年で13千人増加とする数値目標を掲げています。

動物園の再整備では、このKPI数値を整備効果の目標とする他、情報発信回数、HPアクセス数、寄付金の収入額、twitterのフォロワー数など、多様な面から定量評価していきます。